

## 入選

### かっこいい父

福井県 明道中学校 一年

竹野 伊織

「お客様の中に、お医者様はいらっしゃいませんか。」

数年前、家族旅行をしました。飛行機に乗って数時間たったころでした。僕は映画を見ていましたが、映画が止まり、アナウンスが流れました。となりで父も映画を見ていましたが、うとうとしていました。

父はアナウンスが流れると目を開けましたが、じっとしていました。僕は父に、

「お医者さんだっ。行きなよ。」

と言いましたが、父はまだじっとしていました。僕は辺りを見回してみましたが、誰も席を立つ様子はありませんでした。どうするのだろうと思っていると、また同じアナウンスが流れました。

父は意を決したように、僕の顔を見て「うん」とうなずき、席を立ちました。近くのキャビンアテンダントさんに声をかけ、いっしょに前の方に進んで行きました。途中で父の姿は、見えなくなりました。目の前の映画はどんどん進んで行くけれど、僕は全く映画に集中できず、父が戻ってくるのをずっと待っていました。

どれくらいの時間がたったかわかりませんが、父がキャビンアテンダントさんとニコニコしながら戻ってきました。僕はその顔を見て、ホッとしました。

父が席に着くと、すぐに、

「何の病気だったの。どんな状況だったの。治ったの。」

と次々と質問しました。

父は深呼吸した後、話してくれました。父が患者の席に着くと、キャビンアテンダントさんと話しており意識はしっかりしていたので、緊急を要するものではなさそうだ、と安心したようです。その後は、血圧を測ったり、患者との話から腰痛だろうと判断はしたけれど、機内には検査機械などないため確信は持たず、父は着陸するまでときどき患者の席に行き、大丈夫かと確認していました。

幸い、その後は何も起こらず着陸し、父は現地の病院でみてもらうように話していました。患者は何度も何度も「ありがとう」と言って、飛行機を降りていきました。数日後、家に航空会社から患者の状況と、機内で援助したことへの感謝の手紙が届きました。

父の専門は、整形外科です。頭や心臓だったら、ちゃんとみることができない。英語もペラペラではないから、もし患者が外国の人であれば会話さえ通じないかもしれない。席を立つ前は、無数の言い訳が頭をよぎったそうです。それでも、自分がみなかったら、患者は不安と苦しみで残りの数時間を過ごさなければならぬ。もしかしたら、死んでしまうかもしれない。何かやれることはあるはずだ、と立ち上がったようです。

僕はこれまで、一度も父が働いているところを見たことがありません。家でも、あまり仕事の話をしたこともありません。だから、初めて見た父の行動はすごくかっこよかったです。

僕も父のように、迷ったときも勇気をもって行動ができる人になりたい、と思いました。